

新設授業科目 改善策 ( 開講科目名： 学術基礎英語 )

担当教員名【 増井正哉 】

- ① カリキュラムの改善点、
  - ・ カリキュラムの柱は、論文作成のポイントと、グループワークのプレゼンテーションの2つである。学生評価も概ね好評であったので、次年度もこの内容でカリキュラムを組む。
- ② シラバスの改善点、
  - ・ 実際の授業の進行とシラバスの内容に不整合が生じた。次年度のシラバスは、本年度の経験を反映させたものになっている。
- ③ 授業形態の改善点
  - ・ 今回のようなワークショップ形式の授業では、1グループ5名で4グループを指導するのが適当な規模である。本年度は前期32人、後期8人と履修車がアンバランスであった。
  - ・ 前期の授業は2週連続で行った。そのため、グループワークとして宿題をこなすのは困難であったようだ。後期は授業の間隔を2週間にしたため、十分なグループワークの時間がとれた。本年度も宿題としてグループワークを課したいと考えており、2～3週間の間隔をあける予定である。
  - ・ グループワークのテーマを、アフガニスタンの復興支援に関するものとしたことに、学生の評価がわかれた。本学の取組とゲストスピーカーの実際のフィールドで、格好のテーマと考えた。次年度は、予備的な情報を整理して提供することにしたい。
  - ・ 当初、本学教員（増井）とゲストスピーカー（関口）とのコラボレーションで授業を進める予定であったが、経験の深いゲストスピーカーに頼った授業形態になってしまった。授業の進め方を工夫する予定である。
- ④ 配布資料の改善点
  - ・ 必要かつ十分な内容であったと考えている。
- ⑤ 学生への対応の改善点、
  - ・ 論文作成指導については、個別の添削を行ったが、前期は受講人数が多すぎて、十分な時間がとれなかった。前後期とも、最終レポートの添削は、本学担当教員を經由して返却したが、十分な指導ができなかったかもしれない。添削と返却の方法を検討したい。
- ⑥ TAのあり方の改善点、
  - ・ 適任者が見つからなかったこともあって、本年度はTAを採用しなかったため、本学教員とゲストスピーカーの負担が増えた。本年度は、学生との連絡など、事務的な部分をTAに担当してもらう予定である。
- ⑦ その他の改善点 などの観点項目を
  - ・ 学生の履修機会を増やすために、前期と後期に、同じ内容の授業を行っている。学生にとっては便利かもしれないが、担当教員には負担となる。改善を望む。